

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 縁寿の園

(ユニット名) しだれ桜(1ユニット)

記入者(管理者)
氏名 佐藤 拓也(安藤 弘美)

評価完了日 平成20年8月5日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	一人一人がいきいきと私らしく暮らせるよう、その日その日の入居者様の声を聞き匂の関わりができるよう努めている。	入居者様の声が拾え切れていない部分がある。今後も関わりの時間をさらに増やし信頼関係を築き「今すぐの匂のサービス」に取り組んでいきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者が常に念頭に置いて話し合いが行えるよう伝えている。ユニット会議やカンファレンス、申し送り時に理念に沿った意見がスタッフ間で取り組めるよう、話し合いの場を持っている。	今後も管理者とスタッフで理念の共有を図り、日常のケアの向上に取り組んでいきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	「家族会」「運営推進会議」において、認知症についての説明を行い、その上で事業所の理念を伝えている。	行事に参加して頂いたり地区の行事に参加することにより、グループホーム及び認知症の理解を協力の推進活動を図っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	庭の手入れや散歩時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話している。畑の手入れでは、地域と一緒にやっている。バス停が目の前にあり、待ち時間の間気軽によってくれている。	さらに交流を深めていき、ホームを近隣の信頼関係を気づいていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	近隣の方から地域の行事の情報を頂き参加している。又、町内会の一員なり回覧板を通して、行事に参加している。地域の伝統行事にはホーム全体で参加している。その他には縁寿の園の年間行事予定表を地域に配布して地域の方とつながりけるよう心掛けている。	地域行事への行事には積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方から認知症の相談を受けるようになってきた。管理者が事業所での実践内容を踏まえて、地域の会合に関わりながら認知症についての啓発に努めているが、積極的な活動は行っていない。</p>	<p>介護予防教室の開催等、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を実施して行きたい。</p>
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>法人代表・管理者・スタッフが外部評価に意義についてビデオを参考に学んでいる。自己評価については、各ユニットリーダーが中心となり、前回の振り返り取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームでの生活状況や評価結果の報告をしている。又、学校関係者の出席があり、地域にできることはないかと意見交換・情報交換をしており、意見の中から地域への配布する縁寿の園だよりの発行の要望があり、本年度から実施して地域へ配布している。</p>	<p>ホームの状況報告をしながら、意見交換や助言を頂き、入居様が地域で暮らしやすい環境をさらに作りあげていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村に登録された介護相談員が月に2回来園され、利用者の疑問や不満を受付、サービス提供事業所や行政に橋渡ししながら、サービスの向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>情報をスタッフへ回覧板して、内部勉強会を実施している。現在は制度を利用している方はいない。</p>	<p>内部・外部の研修のできる場を設けていき、支援ができる体制を整えていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について勉強会を開催しているが、具体的な説明までは不十分かもしれない。</p>	<p>外部研修へ参加していく。内部で定期的に研修を開催してスタッフ一人一人の知識を高めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、時間をとって丁寧に説明にしている。事業所の理念やケアに関する考え方、過去を含めた対応可能な範囲について説明している。解約時には、家族と相談しながら決めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者・ユニットリーダーを中心に解決するよう心掛けている。又、介護相談員を派遣してもらい、利用者の立場の立った意見を頂いている。</p>	<p>入居者・家族から意見が出やすいよう工夫していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族様へ1ヶ月に1度「縁寿の園だより」を発行し、本人の思い、スタッフの意見を添えて、小遣い明細書を郵送している。又、必要に応じて電話連絡を行っている。</p>	<p>各家族様に合わせた「縁寿の園だより」での報告内容を工夫していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情内容によって地域包括支援センターや法人代表へ報告体制を整えている。</p>	<p>家族会等で何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに留意していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1度運営会議を設けリーダー・管理者・法人代表が出席してスタッフの意見を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事など決まっていることに対しては、勤務表で調節している。管理者は状況に応じた対応ができるよう柔軟な体制が取れている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	退職や異動の時には、新職員と入居者がなじみの関係を築く為に一つ屋根の下での考えに現スタッフ同士がフォローを行っている。管理者の変更は無い。	異動はケアの質を上げるうえで必要と考えているので入居者への影響を最小限に食い止め、不安や混乱が起きないように取組みたい。
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	県・社協・連絡協議会の研修機会においてその人の段階に合った研修へ参加している。又、内部研修も行い研修の設定取り組みをしている。管理者は年度で人材育成の目標を作成している。	各職員の成長を見ながら本人が希望する研修やホームが本人に望む研修について積極的に参加していきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者がグループホーム連絡協議会の地区の研修委員に属し、地域の事業所との情報交換を行っている。又、ユニット会議、カンファレンス、申し送り時にスタッフへ情報を共有できるよう取り組んでいる。	認知症ネットワークづくりと地域において認知症の人が住みやすい環境づくりに貢献していきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	仕事終了時間の厳守や休日確保の時間管理には注意をはらっている。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	自他共に成長の実感が感じ取れるような環境の取り組みをしている。自分の将来のあるべき姿を目標設定。その通過点において必要な資格取得や研修・セミナー参加には援助している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>お客様本位で一人一人に応じた対応のサービスの工夫をしている。一緒に過ごす時間で気持ちを愛容し、寄り添い、信頼し合える関係を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで、支援に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様が面会したり、ご家族様と入居者様が外出したり、今までの関係を保てるようにしている。又、ホームの行事などにご家族様を呼びかけし、より良い関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人が面会に来てもらえるように呼びかけしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士が話や相談ができるように見守りをしている。又、入居者様が孤立してしまう場面もあるので、関係が作れるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事で紹介したり、気軽に相談できるよう心掛けています。又、転移先の施設に訪問できるよう家族へ理解を求めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式・心身の情報シートを使用することにより、本人の心の声・思いを確認し把握している。又、家族とのコミュニケーションを図りながら、情報交換・表情・行動・言動の中から本人の思いや意向の把握に努めている。</p>	<p>今後センター方式の研修へ参加して活かしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に情報を本人や家族から得ている。情報は整理して職員が把握できるようファイルにまとめている。又、面会時や家族会には話し合いができるよう工夫している。</p>	<p>御家族様や知人等から情報を集め、ケアの向上に努めていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人の生活リズムをケース記録や排泄状況等記録することによって、その人、全体の把握に努めている。</p>	<p>心の変化や小さな動作から、出来ない事より出来る事を見逃さないようにしていきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式・心身の情報シートを使用することにより、本人の思いを把握し要望を掴み取り、職員間で情報共有し定期的に状態・状況変化時モニタリング・カンファレンスを行い介護計画に活かしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を元に日々のかかわりの中で状態・状況変化に気付きを持つよう努めている。定期的に効果の有無、満足度を評価し職員の情報交換・家族の要望を確認しながら実情対応又、危険予防ができるよう見直し行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり食事・水分・排泄・体重等、身体的状況及び生活様子を記録している。スタッフは、申送り時に前回の状況を把握して報告しているが、記録を活かしての見直しは徹底して活かされていない。		スタッフ一同が譲許の共有ができるよう記録の重要性を認識して、状態変化時には、その都度、アセスメントを行い見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力による避難訓練を行っている。地域と合同で行う、夏祭りでは、地域ボランティアの方に参加して頂いている。消防署・地域の学校への協力体制をとっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、情報交換や相談をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力機関の先生に気軽に相談でき状態変化時は、連絡して往診に来て頂いたり助言等をいただけるようになっている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>嘱託医が神経内科であり協力機関の先生と相談できる体制を整えており助言を頂いている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院・退院時には、医師からの説明や看護師との情報交換や方向性について相談し合っている。又、頻繁にスタッフが面会に行き家族と情報交換をしながらホームでできる事を活かしている。</p>		<p>事務所内での対応可能な段階で退院できるようアプローチしていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・看取りに関する指針を作成し重度化・終末期に対応方針を定め、家族、医師、担当介護支援専門員を交えて話し合いを行っている。又、支援や対応について各ユニットへ報告して情報を共有している。</p>		<p>重度化・終末期に対する知識を高め内部でイメージし研修していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切にして家族とは話し合い不安な気持ちが軽減される様取り組んでいるが、本人・家族の希望は確認のみで記載事項は無い。医療に関しては、主治医・関係医療機関の医師から説明して頂き、最期の場所を確認している。</p>		<p>段階に応じて主治医・協力医療機関・家族と相談を繰り返していき、納得できる最期を確認していきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族承諾情、情報交換を行い別の場所においても生活できるよう施設スタッフや医療機関等を交え話し合いをしている。</p>		<p>その人らしさが継続して生活できるよう対応していきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛けする時は、周りの利用者様に配慮し、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>		<p>スタッフの意識向上を図り利用者様の対応の徹底(言葉遣い・声掛け)を継続していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた声掛けをしている。又、意思表示が困難な方には表情から読み取る努力をしている。押し付けることが無いように利用者が自分で決める場面を作っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人基本的な流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。その日、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある支援を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>2・3ヶ月に1度理美容室に出向してもらい、本人が以前から行きつけの店がある利用者は、その店に出かけている。又、御家族様に協力してもらい散髪していただく場合もある。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>誕生日や日々の食事に食べたい物をご本人に聞きメニューに取り入れている。おやつも利用者と一緒に手作りし楽しんでいる。又、野菜の皮むきや後片付けも利用者中心に職員と行っている。</p>		<p>継続して入居者様に食べたい物を聞き入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>誕生日や日々の食事に食べたい物をご本人に聞きメニューに取り入れている。おやつも利用者と一緒に手作りし楽しんでいる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄の訴えがない利用者には、定時誘導の声掛けし昼、夜の尿取りパットを使い分け対応している。又、排泄チェック表を使用し時間や習慣を把握し支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴できる。また、体調やバイタルチェックにて、入浴の不可を利用者と相談しながら決めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中運動をしたりし、夜間眠れる工夫をしている。又、疲れた時やゆっくりした時等は、ソファや畳コーナーで休んで頂くようにしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>食事時や1日の生活の中で一人一人が役割を持ってもらえるよう努めている。又、センター方式の用紙を使い、その人の生活歴や楽しみごとの把握ができるように取り組んでいる。又、食事の際に十分な時間を確保して、ゆっくり摂取できるよう工夫している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人がお金(少額)を管理している方もいるが、ほとんどは、事務所で預かり、外出時は持っていく形態を取っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気、本人の気分や希望に応じて、心身の活性につながる様、日常的に散歩や、季節感を肌で感じて頂けるようドライブ等にでかけている。		家族に協力を得て自宅や友人宅への外出等対応できるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	企画し外出はしているが、個人支援の外出や家族との外出は少ない。		個別での外出も希望時には、実現できるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	月に一度家族への手紙を出しており利用者本人が近況等を書ける方には書いてもらい、職員が代筆する場合もある。電話は自由に使えるようにしてあるが希望の少ない利用者もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	他入居者に刺激を与える為、面会時間を9時から20時までに規制しているが、時間外の場合、家族様は規定を把握してくれているため、事前に連絡が来る体制になっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を実施をして、スタッフの共有認識を図っている。カンファレンスやユニット会議で自覚していない身体拘束が行われていないか、確認している。		定期的な身体拘束の勉強会を実施していきたい。外部の研修に積極的に参加していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は、鍵など掛けず、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声を掛けたり、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>昼夜共に職員は利用者を見守りしやすい位置にて本人を尊重しながら安全に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者の状況に合わせた、厳重に保管すべきもの保管管理が必要なもの、注意が必要なもの等に分けて管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>万が一の事故が発生した場合は、速やかに事故報告書を作成し、事故原因を把握し、また、今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。又、事故後は内部勉強会を開催してさらに知識を高めている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>初期対応については、勉強会を実施したり、事故対応マニュアルを作成して対応している。</p>		<p>急変時には各ユニットでの協力体制が必要なので全体での連携作りに力を入れていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は、1ヶ月に1回実施しており、協力体制については、運営推進会議や地域の会合に参加して呼びかけている。夜間を想定した避難訓練や地震、災害の十分な回数はできていない。</p>		<p>あらゆる災害を想定して日々の訓練に取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の気持ちを尊重して家族の方に状況説明、対応策を家族と共に検討しているが、本人の気持ちと家族の気持ちに、すれ違いが見られている。		個人の身体レベル・認知症レベル・精神面等を随時、連絡しながら、事前に防げるように対応していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも顔色や様子等の変化が見られたときは、バイタルチェックし、変化時の記録をつけている。状況に応じ、往診や受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、職員が必ず確認し、医師からの指示があった時は、ケース記録に記入している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や体操、適度な運動を行う、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の入居者様のペースに合わせて歯磨きの声掛けを行ない、自分で出来ない方は、介助をおこなっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量を記録し栄養状態を確認している。又、その人に応じ刻んだり食べやすいように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から戻ったら利用者、職員共に手洗いうがいの徹底に努めている。感染症の時期には、マニュアル等確認し対策予防している。		感染症の時期に限らず手洗いうがいの徹底を継続していき、勉強会を開き感染症の意識を高めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾は、毎日、夕食後キッチンハイターで消毒している。冷蔵庫も定期的に点検・掃除を行い衛生に十分注意して衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように花を生けたり、鉢植えの花を飾ったりして、季節感を演出している。まだまだ、親しみやすい空間作りはできていない。		玄関の明るさや人が気軽によつてこられるような場所を作っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、利用者の手作りのカレンダーや廊下の壁に桜やこいのぼり、手作りの貼り絵等を掲示したり、玄関には、定期的に生花を飾り利用者が季節感を感じ生活しやすい空間を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーに長座布団、椅子、テーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		畳コーナーが、まだまだ活かされていないので、活用できるように工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や、使い慣れた日用品を持ってきている。	本人が過ごしやすい空間を造るために、必要なものを、本人、家族と相談しながら整えていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は入居者の発汗の様子や冷えなどに注意し、こまめに行っている。又、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等至るところに手すりがあり、危険の無い様なつくりはなっているが、ほとんどバリアフリーになっているので自立という部分が低下するのは防ぎきれない。	機能低下を防ぐように、生活空間を考えていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ること、出来ない事を把握し、支援して入居者様に合わせゆっくり支援している。	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に季節の花を植えたり、車椅子の方も外の空気や景色を楽しめる様、ウッドデッキを活用している。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・緑豊かな環境で一步外へ出ると大自然が見渡せ、四季折々の景色と自然が味わえ、地域町内会の方々と気楽に話せるコミュニケーション、癒しとマイナスイオンを感じさせてくれそうな近くの川のせせらぎ、地域で収穫された旬の野菜も味わえ、自然と人そして旬の食材などのふれあいが感じとれるようなサービスに取り組んでおります。
- ・一人一人が本人の思いを少しでも実現できるよう各入居者の思いや声をサービスにつながるよう努めています。
- ・嘱託医がいつでも往診可能な体制になっており入居者、家族が安心できる。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 縁寿の園

(ユニット名) 滝桜(2ユニット)

記入者(管理者)
氏名 佐藤 拓也(熊田 文江)

評価完了日 平成20年8月5日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	一人一人がいきいきと私らしく暮らせるよう、その日その日の入居者様の声を聞き旬の関わりができるよう努めている。	入居者様の声が拾え切れていない部分がある。今後も関わりの時間をさらに増やし信頼関係を築き「今すぐの旬のサービス」に取り組んでいきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者が常に理念の念頭に置いて話し合いが行えるよう伝えている。ユニット会議やカンファレンス、申し送り時に理念に沿った意見がスタッフ間で取り組めるよう、話し合いの場を持っている。	今後も管理者とスタッフで理念の共有を図り、日常のケアの向上に取り組んでいきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	「家族会」「運営推進会議」家族出席において、理念と認知症の理解を深めて頂いている。	家族や地域の人に行事に参加して頂いたり地区の行事に参加することにより、グループホーム及び認知症の理解と協力の推進活動を図りたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	庭の手入れや散歩時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話している。畑の手入れでは、地域と一緒にやっている。バス停が目の前にあり、待ち時間の間気軽によってくれている。	さらに交流を深めていき、ホームと近隣の信頼関係を気づいていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	近隣の方から地域の行事の情報を頂き参加している。又、町内会の一員となり回覧板を通して、行事に参加している。夏祭りでは、地域から期待され、共に行事を行っている。	回覧板で地域行事のお知らせがあるので、積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中で同じ地区の高齢者の状況を把握しているが地域の様々な研修会介護に関わりながら認知症についての啓発は不十分である。</p>	<p>介護予防教室の開催等、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を実施していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>法人代表・管理者・スタッフが外部評価の意義についてビデオを参考に学んでいる。自己評価については、各ユニットリーダーが中心となり、前回の振り返り取り組んでいる。</p>	<p>法人代表・管理者・スタッフ・一人一人がサービスの質、スキルを高め改善に向けてビジョン化していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームでの生活状況や評価結果の報告している。又、学校関係者の出席があり、地域にできることはないかと意見交換・情報交換をしており、意見の中から地域への配布する縁寿の園だよりの発行の要望があり、本年度から実施して地域へ配布している。</p>	<p>ホームの状況報告をしながら、意見交換や助言を頂き、入居者様が地域で暮らしやすい環境をさらに作りあげていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村に登録された介護相談員がつきに2回来園され、利用者の疑問や不満を受付、サービス提供事業所や行政に橋渡ししながら、サービスの向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>情報をスタッフへ回覧板しているが、勉強会や研修会は開催していない。</p>	<p>内部・外部の研修のできる場を設けていき、支援ができる体制を整えていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について勉強会を開催しているが、具体的な説明までは不十分かもしれない。</p>	<p>外部研修へ参加していく。内部で定期的に研修を開催してスタッフ一人一人の知識を高めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、時間をとって丁寧に説明している。事業所の理念やケアに関する考え方、過去を含めた対応可能な範囲について説明している。解約時には、家族と相談しながら決めている。</p>	<p>一人一人に家族により理解が違うのもっと分かりやすい説明に努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者・ユニットリーダーを中心に解決するよう心掛けている。又、介護相談員を派遣してもらい、利用者の立場の立った意見を頂いている。</p>	<p>入居者・家族から意見が出やすいよう工夫していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族様へ1ヶ月に1度『縁寿の園だより』を発行し、本人の思い、スタッフの意見を添えて、小遣い明細書を郵送している。又、必要に応じて電話連絡を行っている。</p>	<p>各家族様に合わせた『縁寿の園だより』での報告内容を工夫していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情内容によって地域包括支援センターや法人代表へ報告体制を整えている。</p>	<p>家族会等で何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに留意していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1度運営会議を設けリーダーサブリーダー・管理者・法人代表が出席してスタッフの意見を聞いている。又、定期的な個人面接を行い、スタッフ一人一人の意見を聞き話し合いの場を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事など決まっていることに対しては、勤務表で調節している。管理者は状況に応じた対応ができるよう柔軟な体制がとれている。</p>	<p>入居者の満足・安心できる生活が送れるよう柔軟な勤務調節をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職や異動の時には、新職員と入居者がなじみの関係を築く為に現スタッフ同士がフォローを行っている。管理者の変更は無い。</p>	<p>異動はケアの質を上げるうえで必要と考えているので入居者への影響を最小限に食い止め、不安や混乱が起きないように取組みたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県・社協・連絡協議会等の研修機会においてその人の段階に合った研修へ参加している。又、内部研修も行い研修の設定取り組みをしている。管理者は年度で人材育成の目標を作成している。</p>	<p>各職員の成長を観ながら本人が希望する研修やホームが本人に望む研修について積極的に参加していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がグループホーム連絡協議会の地区の研修委員に属し、地域の事業所との情報交換を行っている。又、ユニット会議、カンファレンス、申し送り時にスタッフへ情報を共有できるよう取り組んでいる。</p>	<p>認知症ネットワークづくりと地域において認知症の人が住みやすい環境づくりに貢献していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事終了時間の厳守や休日確保の時間管理には注意をはらっている。</p>	<p>時間どおりに帰宅できるよう継続していきたい。又、小さな相談でも話せるよう、機会や場をつくっていききたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自他共に成長の実感が感じ取れるような環境の取り組みをしている。自分の将来のあるべき姿を目標設定。その通過点において必要な資格取得や研修・セミナー参加には援助している</p>	<p>各職員の目標設定には話し合いの中で設定を決める。又、目標設定力を全員で高めるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は、人生の先輩であるという考えを念頭に食事作りをはじめ、いろいろと教わりながら一緒に行うようにしている。また、一緒に過ごす時間で気持ちを愛容し、信頼し合える関係を築いている。</p>	<p>利用者の気持ちを一番に考え愛容していけるようにしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで、支援に努めている。		遠方の御家族様もいるので、負担とならないような形で協力できる体制を作っていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族様が面会したり、御家族様と入居者様が外出したり、今までの関係を保てるようにしている。又、ホームの行事などに御家族様を呼びかけし、より良い関係の継続に努めている。		御家族様とのつながりを大切にしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人が面会に訪れている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士が話しや相談ができるように見守りをしている。又、ご入居者様が孤立してしまう場面もあるので、関係が作れるように努めている。		入居者様同士の関係の間に理解を努め、共に暮らしを楽しめるように支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事で紹介したり、気軽に相談できるよう心掛けている。又、転移先の施設に訪問できるよう家族へ伝えていく。		人と人の縁を大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、声掛けや行動の把握に努めている。又、意志疎通が困難な方には、御家族様から情報を得るようにしている。</p>	<p>その人らしく暮らしを続ける支援に向けて色々な視点からの情報を取り入れ実施していきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時や面会の時、生活暦の情報を取り入れ把握するようにつとめている。</p>	<p>もっと御家族様や知人等から情報を集めるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>声掛け等、確認しながら一人一人の生活リズムに合わせ、その人、全体の把握に努めている。</p>	<p>ケース記録や排泄状況等記録することによって、出来ない事より出来る事を見逃さないようにしていきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常生活の中でその人らしく生活できるよう本人や家族の話を聞き、介護計画に反映するようにしている。アセスメント・モニタリング・カンファレンスをユニットスタッフと意見交換している。</p>	<p>認知症に状態に合わせ本人の本位で満足できる生活を家族と相談しながら計画を継続していきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しや儒教変化時には、本人・家族へ説明して、状況にあった計画を作成している。</p>	<p>状況変化があってもできること、やりたい事は、提供していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルがあり食事・水分・排泄・体重等、身体的状況及び生活様子を記録している。スタッフは、送り時に前回の状況を把握して報告しているが、記録を活かしての見直しは徹底して活かされていない。</p>		<p>スタッフ一同が譲許の共有ができるよう記録の重要性を認識して、状態変化時には、その都度、アセスメントを行い見直しに活かしていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>消防署の協力による避難訓練を行っている。地域と合同で行う、夏祭りでは、地域ボランティアの方に参加して頂いている。消防署・地域の学校への協力体制をとっている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。</p>		<p>一人一人に合った入居者にどんなサービスを利用してほしいか検討いきたい。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、情報交換や相談をしている。</p>		<p>認知症になっても暮らしやすいよう連携を深めていきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力機関の先生に気軽に相談でき状態変化時は、連絡して往診に来て頂いたり助言等をいただけるようになっている。</p>		<p>今後も医師との連携を強化しながら入居者が安心できる生活に努めていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>嘱託医が神経内科であり協力機関の先生と相談できる体制を整えており助言を頂いている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院・退院時には、医師からの説明や看護師との情報交換や方向性について相談し合っている。又、頻繁にスタッフが面会に行き家族と情報交換をしながらホームでできる事を活かしている。</p>		<p>事務所内での対応可能な段階で退院できるようアプローチしていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期に対応方針を定め、家族、医師、担当介護支援専門員を交えて話し合いを行っている。又、支援や対応について各ユニットへ報告して情報を共有している。</p>		<p>重度化・終末期に対する知識を高め内部でイメージし研修していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切にして家族とは話し合い不安な気持ちが軽減される様取り組んでいるが、本人・家族の希望は確認のみで記載事項は無い。医療に関しては、主治医・関係医療機関の医師から説明して頂き、最期の場所を確認している。</p>		<p>段階に応じて主治医・協力医療機関・家族と相談を繰り返していき、納得できる最期を確認していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族承諾情、情報交換を行い別の場所においても生活できるよう施設スタッフや医療機関等を交え話し合いをしている。</p>	<p>その人らしさが継続して生活できるよう対応していきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛けする時は、周りの利用者様に配慮し、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。又、利用者様、人生の先輩なので、言動等には配慮している。</p>	<p>スタッフの意識向上を図り利用者様の対応の徹底(言葉遣い・声掛け)を継続していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示が困難な方には、提案をし、本人から返答を待つ対応している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある支援を行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人が以前から行きつけの店がある利用者は、その店に出かけている。又、服装については、洋服を自分で選んで頂くように行っている。</p>	<p>その人らしいおしゃれが出来るように継続し支援していきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一応時間帯は決まっているが利用者の起床時間で対応している。食器拭き等は、利用者とスタッフが一緒に行っている。食事の時間は、決まっているものの、利用者の声や状態に合わせて食事をしている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>誕生日や日々の食事に食べたい物をご本人に聞きメニューに取り入れている。おやつも利用者と一緒に手作りし楽しんでいる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を使用し時間や習慣を把握し支援している。又、排泄の訴えがない利用者には、定時誘導の声掛けしている。</p>		最後まで自力で排泄できるように支援していきたい。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴できる。また、体調やバイタルチェックにて、入浴の不可を利用者と相談しながら決めている。又、本人が好みの入浴剤等使用し、ゆっくり楽しく入浴できるよう心掛けている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中運動をしたりし、夜間眠れる工夫をしている。又、日中は豊コーナーにて入眠ができるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>それぞれできる事の役割を行っている。利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。</p>		役割が利用者の負担にならないように個人のできる事を見つけ支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	金銭は、事務所で預かり、外出時には持っていく形態を取っている。又、家族の希望により、本人が少額を管理している方もいる。		本人の買い物希望時には、本人に財布を持たせ、本人に買い物をしていただいている。継続して支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気、本人の気分や希望に応じて散歩を行っている。又、家族に協力を得て自宅や散歩に外出をしいる。		親しい入居者同士で散歩ができるよう支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節感を味わって頂く為、月に数回ドライブやピクニックに出かけている。		一人一人の行きたいところを聞き、そこに出かけるように支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	月に一度家族への手紙を出しており利用者本人が近況等を書ける方には書いてもらい、職員が代筆する場合もある。又、利用者の希望があれば、家族へ電話を掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	気軽に来所して頂き、居室にてゆっくり過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を実施をして、スタッフの共有認識を図っている。カンファレンスやユニット会議で自覚していない身体拘束が行われていないか、確認している。		定期的な身体拘束の勉強会を実施していきたい。外部の研修に積極的に参加していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は、鍵など掛けず、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声を掛けたり、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。</p>		<p>職員見守りを徹底しその人の気持ちや状態をしっかりと把握して生活を支援していきたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>さりげなく利用者がどこにいて何をしているか把握に努めている。又、夜間歩行にふらつきがある方には、ドアに鈴を付け安全を維持している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者の状況に合わせた、厳重に保管すべきものの保管管理が必要なもの、注意が必要なもの等に分けて管理している。</p>		<p>入居者の状態に合わせてしっかりと保管、管理していきたい。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>常に危険予測をし業務にあたっている。</p>		<p>一人一人の状態から予測される危険を検討し勉強会等を開催していきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>初期対応については、勉強会を実施したり、事故対応マニュアルを作成したりして対応している。</p>		<p>個人個人の事故対応マニュアルを作成していきたい。看護婦による初期対応についての研修を設けていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は、1ヶ月に1回実施しており、協力体制については、運営推進会議や地域のイベントの参加して呼びかけている。夜間想定など十分な回数はない。</p>		<p>あらゆる事想定し避難訓練を実施していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の気持ちを尊重して家族の方に状況説明、対応策を家族と共に検討しているが、本人の気持ちと家族の気持ちに、すれ違いが見られている。		個人の身体レベル・認知症レベル・精神面等を随時、連絡しながら、事前に防げるように対応していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックし、変化時の記録をつけている。状況に応じ、往診や受診を行っている。		いろんな急変に対応できるよう、医師との連携を保っていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、職員が必ず確認し、医師からの指示があった時は、ケース記録に記入している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が出ていない方には、日中の活動性をあげ、水分摂取を促し対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後口腔ケアを行ない、磨き残しがある方には、一部介助をおこなっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量を記録し栄養状態を確認している。又、その人に応じ刻んだり食べやすいように支援している。		一人一人の習慣に応じ対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前・外出・トイレ後は、手洗いうがいの徹底に努めている。感染症の時期には、マニュアル等確認し対策予防している。		感染症の時期に限らず手洗いうがいの徹底を継続していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾は、毎日、夕食後キッチンハイターで消毒している。冷蔵庫も定期的に点検・掃除を行い衛生に十分注意して衛生管理をしている。		衛生管理には今後も十分注意していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり、鉢植えの花を飾ったりして、季節感を演出している。まだまだ、親しみやすい空間作りはできていない。		玄関の明るさや人が気軽によつてこられるような場所を作していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音には十分配慮している。又、まぶしいときは、レースカーテン等で調節している。		利用者の生活にあった空間づくりを考えていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーに長座布団、椅子、テーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、居室に写真等を持参して頂いている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者の体感温度にあわせ換気を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴室、トイレ、廊下等至るところに手すりがあり、危険の無い様なつくりはなっているが、ほとんどバリアフリーになっているので自立という部分が低下するのは防ぎきれない。</p>		<p>機能低下を防ぐように、生活空間を考えていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>出来ること、出来ない事を把握し、支援しているが、職員が手を出したり、したため行動をやめてしまう時がある。</p>		<p>その人の状況に合わせ、出来る事を活かせる環境を考え、状態の変化などがあるので、その人の見極めは常に観察していきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>日常的に、花壇眺めたりに、花を植えたりしている。</p>		<p>花壇いじりや畑いじり等をより活かしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3 くらい の 利用者の1/3 くらい の ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらい が 利用者の1/3 くらい が ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらい が 利用者の1/3 くらい が ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらい が 利用者の1/3 くらい が ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらい が 利用者の1/3 くらい が ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらい が 利用者の1/3 くらい が ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3 くらい と 家族の1/3 くらい と ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・緑豊かな環境であり一歩外へ出ると大自然が見渡せ四季に応じて景色が変わり視る満足、町内会の方々と気楽に話せるコミュニケーションの充実感、大自然の香りを感じさせてくれる癒し、地域で収穫された野菜を味わえ味覚、自然と地域の方々とふれあいが感じとれる。
- ・一人一人が本人の思いを少しでも実現できるよう各入居者の思いや声をサービスにつながるよう入居者本位で考えている。
- ・嘱託医がいつでも往診可能な体制になっており入居者、家族が安心できる。